

# Dr. 中路の健やか通信 (其の12)



健やか協力隊長 中路 重之

## 第12回 市町村の健康宣言

ある日、ある町から、保健師さんと担当課の課長さんが来られました。「健康づくりやりたいから助言が欲しい」と。

心を鬼にして言いました。「皆さんだけの力だけじゃ無理です」と。

担当者が一生懸命やっているのは知っています。「でも相も変わらず短命県、短命町ですよね」。「じゃあ、どうすればいいんですか?」と担当者が詰め寄ります。「町長さんと合わせてください。そうでないと、例えば学校での健康授業に突き進めないじゃないですか。他の課の人が今のように無関心のままだと短命県返上は無理です」。

その後、町長さんとお話しができ、数か月後健康宣言が出されました。

市町村でも企業でも学校でも、組織はどこでも、トップがやると言わない限り動きません。ですから、平均寿命対策や健康づくりもトップの見識とリーダーシップが問われます。

今、青森県に40市町村がありますが、2019年5月の新郷村の健康宣言で全部の市町村の健康宣言が出されたこととなります。私は、健康宣言に非常にこだわっています。

その意味するところはこうです。組織のトップによる健康宣言は、全体で取り組むということ。健康づくりは担当課のスタッフや保健師にやらせておけばいいや、では短命返上はできません。

それから、健康宣言にもう一つ大切な視点があります。それは、トップが健康リーダー（保健協力員、食生活改善推進員など）の人に目を向けてください、リスペクト（尊敬）してくださいということです。健康リーダーはボランティアです。彼らにプライドと存在感を与えていただきたい。組織や社会の中にそういう視点や環境がない限り、健康づくり・短命返上はできないと思います。そこに大きなお金はいらぬはず。です。

市町村長の行う健康宣言で青森県の短命返上活動は一気に加速しました。とくに市町村長さんが積極的なリーダーシップを取っているのがむつ市、黒石市、青森市、弘前市です。鱒ヶ沢町、南部町も良くやっています。このような市町村の具体的な取り組みはひとつずつ後ほど紹介させていただきます。

※皆さんすでにご承知とは思いますが、私今東奥日報の夕刊で青森県の健康づくりに関する連載をしています。本通信とかなり重なるところもありますが、そちらの方も読んでください。ただし本通信にはより本音を盛り込むようにしています。

